

コンサルテーション事業実施報告

コンサルテーション事業の把握アンケート用紙

事業の名称	水曜教室	事業代表者	本郷一夫
対 象	未就学児・就学児・保護者・教師 (保育士)		
目 的	この教室では広い意味での子ども達の「社会性の発達」を目指している。ここでは、子ども達の現在の生活や将来の生活を常に社会との関係で考え、その中で子ども達が豊かに暮らしていくためには何が必要か、ということを保護者・子どもとともに探っていく		
実 施 日	第二水曜日 (定期)・第四水曜日 (不定期) その他要望に合わせて対応する	実施回数	
		2～3回程度/月	
実施場所	学内実験室		
主なスタッフ	本郷一夫及び東北大学教育学研究科に在籍する大学院生	人 数	
		博士後期課程 4名 修士課程 4名	
スタッフの活動内容	<p>教員の指導の下、大学院生全体がかかわるもの 実習オリエンテーション・発達アセスメント・子ども対応・課題の考案及び実施・支援に対する評価・検討 (カンファレンス)</p> <p>博士後期課程のみがかかわるもの インテイク・親との面接</p>		

コンサルテーション事業の把握アンケート用紙

<p>現在の事業内容 (代表的なもの)</p>	<ol style="list-style-type: none">1. 複数の子どもとスタッフが同じ場を共有する「集団場面」と子どもごとに活動を行う「個別場面」の大きく2つの場面を設定2. 子どもの特徴や発達を理解し、子どもとの関わり方や方針を決めるために、定期的に発達検査・知能検査全部あるいは一部を実施3. 子どもの状態やスタッフの働きかけの有効性を知るために、子どもの活動、スタッフの動きをVTRによって記録4. 保護者は日案と子どもの状態によって次の4つの活動に参加。 ①子どもとともに活動に参加、②部屋の外から子どもの様子を見る、③保護者同士で話し合い、④スタッフと個別に面談
<p>その他</p>	<p>現在コンスタントに不定期相談が入っている。相談対象児は就園児～就学児まで幅広く、個々の問題も様々である。</p>

水曜教室実施概要報告

本年度は、定期的な相談活動は行わず、保育所からの紹介などにより問い合わせのあった5組についてのべ7回水曜教室を実施した。実施時間は2～3時間程度であった。それぞれの実施概要を以下に示す。

	面接回数	来所者	保護者との面接の内容	本児との関わりの内容
6月	初回	本児(4歳、男児) 父・母・妹	・日常の接し方や、今後の発達と発達を促す対応の仕方についての助言	・発達検査(新版K式) ・行動観察
6月	初回	本児(11歳、男児) 父・母	・対象児の行動特徴(こだわりなど)に対する対応の仕方についての助言 ・日常の接し方や、今後の発達と発達を促す対応の仕方についての助言	・発達検査(新版K式) ・行動観察
10月	初回	本児(2歳、男児) 父・母・両親の祖父母	・対象児の行動特徴(切り替えの難しさなど)に対する対応の仕方についての助言 ・保護者の本児理解の支援 ・日常の接し方についての助言	・発達検査(新版K式) ・行動観察
10月	初回	本児(8歳、男児) 父・母	・日常の接し方や、今後の発達と発達を促す対応の仕方についての助言 ・保護者の本児理解の支援	・発達検査(K-A B C) ・行動観察
12月	2回目	本児(3歳、男児) 母・保育士	・前回からの本児の状態・行動の変化の確認 ・今後の発達と発達を促す対応の仕方についての助言 ・転勤先での公的な支援体制について	・発達検査(新版K式) ・行動観察
1月	初回	本児(7歳、男児) 母親	・本児の知的側面の発達を促す対応の仕方についての助言	・発達検査(新版K式) ・行動観察
1月	3回	本児(3歳、男児) 母・保育士	・今後の発達と、発達を促す対応の仕方についての助言	・行動観察